

ヒヨリテ風爐ニシタリト仰ラル、金色カラ形カラ、兎角言舌ニ及ビガタキモノ也、總テ此公○近衛家

熙ノ御物數寄、凡慮ノ及ブ處ニアラズ、  
〔茶湯古事談三〕一風爐は古より南都西の京よりやき出せし也、紹鷗が比は、西の京の總四郎として上手あり、利休が時にも、其子を又總四郎といふて、これも上手なり、秀吉公より天下一號の御朱印を被下しに、利休筆者にて、代本錢一貫文と有しが、中頃焼失して今はなし、されど今に子孫は相續して總四郎と云、又利休時代に、西の京に善五郎と云上手有、其子も又善五郎と云て、さのみ總四郎におとらぬ上手也、此末今の京へ登り四條に住となん、

〔茶道筌蹄三〕風呂作者之部

善五郎 奈良住居、二代は堺住居、四代より京住也、

宗三郎 宗全門人なり

宗四郎 宗三郎の子にて京松原に住す、太閤○豊臣秀吉時代に天下一の名を下さる、今は江戸住居故、千家にも、江戸旅宿中は此風呂を用ゆ御風呂師なり

但し茶器細工人に天下一の名は、風呂師にて宗四郎、塗師にて盛阿彌、樂師二代目吉左衛門、與九郎 京師にて一家の者不詳

善四郎 四代目善五郎の子なり、早く死す、三代目と原叟時代の善五郎とは宗善と云、此二人の外は宗全と書す、

〔明和京羽二重三〕奈良風爐所

上京古木町 善五郎

〔茶道筌蹄三〕筌添品目

五德 昔は臺子風呂に、切懸々土風呂にても透木を用ゆ、紹鷗時代より五德を用ゆるならん、五